

Indies Brand

作品

SB 専用ハーフカウル移動kit

設計値(5cm 前方、1.3cm 下方)

このkitは、SBのハーフカウルを少し前方へ移動させるKitです。

目的は、いろんなタイプのハンドル交換を可能にする為です。

わずかではありますが、ハンドルの取廻し範囲が広がります。

SBはハンドルを換えた時、レバーがカウルに当たる事によって交換不可能が多々あります。

私もハンドルを交換した事により、ハンドルロックが使用不可能になり、車検さえ通らなくなりました。

なので、このkitを作りました。

車検も通りハンドルも交換出来るようになります。

サイドカウルの幅位置を3ポジション変更可能です。

(・ワイドポジション ・少しワイドなポジション ・スタンダードポジション)

●取り付け方以外に、6ページ以降の写真、メリット&デメリット、車検時の注意もご覧ください。

KIT 内容

フロント延長ブロック set	1組
左サイドステー set	1組
右サイドステー set	1組
ホーン移動用ステー	1組
PP バンド	6本

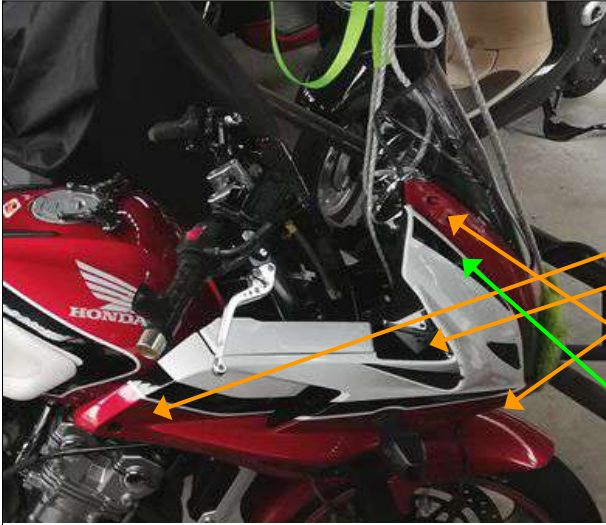


追加部品が有ります。↑

付属のボルト等は、マニュアルの写真とは変わる可能性が有ります。

取付手順

<サイドカウルの外し方>



サイドカウルを外すと、ウインカー配線でカウルをぶら下げなくてはいけなくなります。

配線を根元から外すか、カウルごと吊り下げておくかを決めておきます。

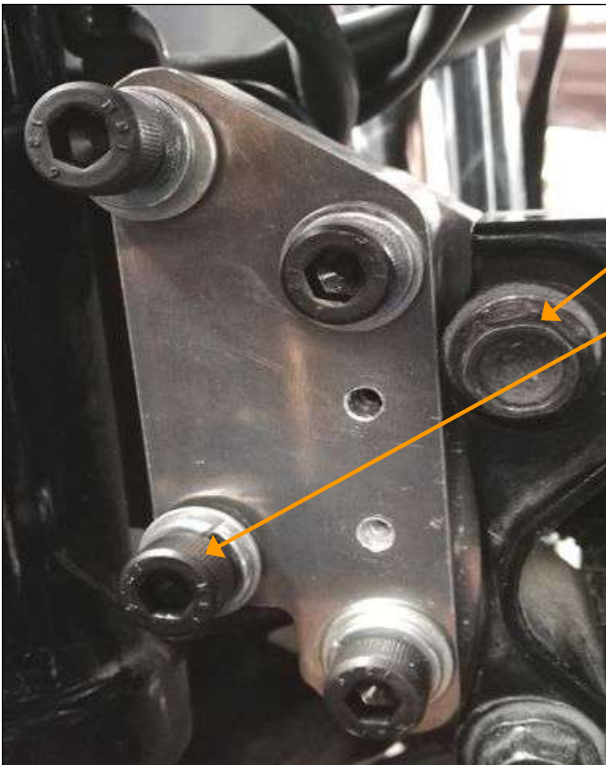
<ボルト固定箇所>

- ・カウルサイドに1本 内側に押込みブッシュ1カ所。
- ・カウル中部 プラピン2カ所
- ・カウル下部 ボルト1本 プラピン1カ所
- ・ミラー外す。
- ・ウインカー配線外す。
- ・カウルは爪で引っ掛けてますので取り外しに注意。



配線でカウルごと吊り下げるとこんな感じです。

<アッパーカウルとフレーム間にフロントブロックを挿入>



- ①純正ボルトを外す。(カウルがぶらさがる)。
- ②配線を無理なく少しずつ引張りながら5cmほど引き出す。
- ③写真の様にフロントブロックを挿入し、ボルトで固定する。

- ・先ほど外した純正ボルトは、カウル側に使用する事。付属のナットを使用して固定。
- ・付属のボルト set 8x35はフレーム側に使用する事。

付属のボルトは特殊なサイズを使用している為、頭の形や色等が変わる可能性があります。

写真は初期開発時の物なので形状が若干異なります。

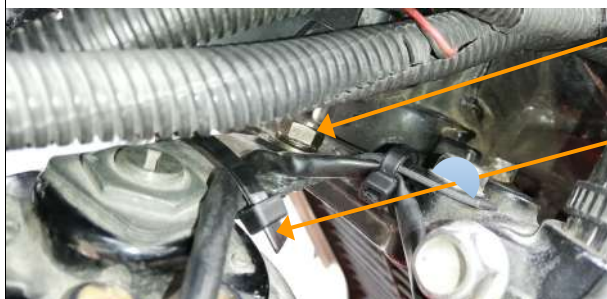
<ホーンステーの付け替え>



- ①純正ホーン金具一式を取り外す。
- ②付属のトラスボルトで金具を取り付ける。
(欠け加工している方を使用し純正ボルトで固定)



- ③金具の先端にホーンを取り付ける。
(ホーンの向きはブレーキホースの邪魔にならないように)
フォークがストロークした時ホーンに当たらない様に。

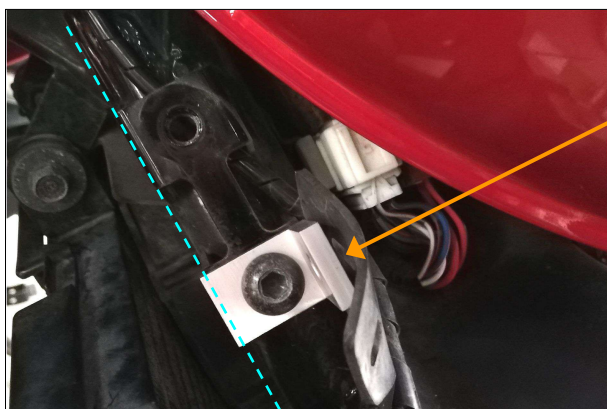


- ④純正ボルトと、付属のナット、ワッシャ、S ワッシャ使用。
- ⑤ハンドルを最大に切った時ハーネスがフレームに挟まらないように配線は、付属の PP バンドでしっかり固定しておく。

◆注意点◆

ハンドルを最大に切った時 (左右共) フロントブロックが、フォーク固定ボルトのギリギリの所に来ます。
その時、ハーネスがその付近にあると、いつか挟まって断線してしまう可能性がある為、付近のハーネス類は安全な場所で固定しておきましょう。

<サイドステーを取り付ける>



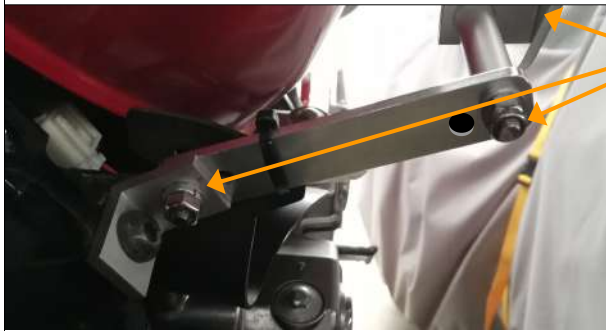
- ①純正サイドステーをフレームから外す。
- ②外した純正ボルトを使用し、写真の様にL形ステーを取り付ける。
(L形ステー穴はΦ8mmの方を使用する。)



- ③サイドステー set を固定する。
あらかじめ少し斜め上にしておく。(後で微調整)
穴位置により、カウルの取付幅を変える事が出来ます。
*ワイドスタイルにする場合、どちらの穴位置も外側を使用する。
(3ポジション選択可能)



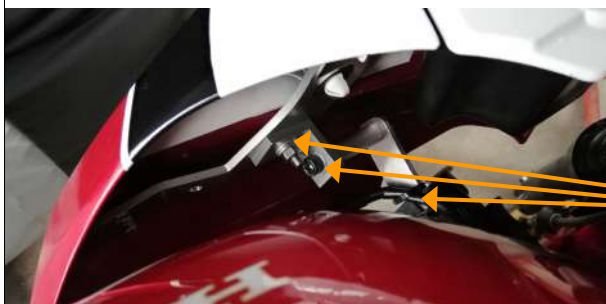
- ④遮熱ラバーシートを固定する。
・ラバーシートの穴を利用して工具が使えるようにしておく。
・もう一つの穴を利用しPPバンド1本で固定する。



- ⑤サイドステー set を固定してるボルト3カ所を8割締めにしておく。
(手で力を入れると動く程度)



- ⑥純正ステーからゴムブッシュを外して付け替える。



- ⑦カウルを取り付ける。
カウル全体を見て位置を整える。
(8割締めしてあるので手の力で動かせます。)
- ⑧カウル位置が整い、ステー位置が安定したら
今まで8割締めした3カ所を増し締めして完成です。

写真のボルト類は初期開発時に撮った写真の為、変更される事も有ります。

NC42 前期 ワイドポジション時のカウル隙間処理

<メーター周囲パネル加工>



カウルをワイドポジションにすると、メーター周囲パネルが左右に引張られカウルとの間に隙間が出来ます。左右が繋がってる真ん中を切断します。



カーボン柄アルミカバーを取り付けます。



アルミカバーの左右を付属の PP バンドで固定します。

取付完成後は、車検に関係があるスクリーン高さ、光軸調整を行って下さい。
スクリーン高さは、少しでもあればフロントブロックのボルトを一旦緩め、位置決めしてから締め付け直す事で、取付穴誤差を利用した角度によるわずかな高さ調整が出来ます。

必ず最後に光軸調整を行って下さい。

↓ノーマル位置



狭いのでハンドルバー交換は、かなり難しい。

↓移動後の位置



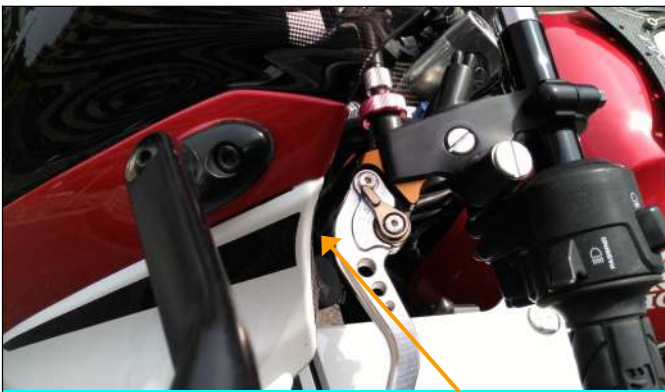
コックピットが広がりました。



ハンドルストッパーを入れないと当たります。



こんなにも空きます。



こちらもストッパーを入れないと当たります。



クラッチ側もこんなにも空いてます。



違和感無い仕上がりになりました。



ワイドポジションでサイドカウルを取り付けたので迫力出ました。



ワイドポジションでもスタンダードポジションでも隙間は空きます。

<メリット>

- ・ハンドル交換の選択幅が広がります。
- ・ハンドルストッパー無しでハンドルが取り付け可能となる為、車検パスも可能。
- ・セパハンも取付可能（ハリケーンのCB1100用が取付可能となります。）
長めのバーエンドを
- ・コックピットが広がる事で、計器やGPSなど様々なアイテムを取り付ける余裕が出来た。
- ・アッパーワイドポジションも可能(写真参考)なので、大型バイクの様な雰囲気をかもし出す。

<デメリット>

- ・カウルとタンクの間に隙間が出来るので中が見える。（別売りのカーボン柄ギャッププレートが必要）
- ・取付や、車検に通す為の調整が手間。（自分では面倒な時は業者に依頼しましょう。最近ではネットで購入した物を取り付けてくれる業者も多くなってきてます。一般のバイク屋さんでも取付代行をしてくれる所も有ります。）

<補足>

商品の大半は強化アルミで作られてます。
目立たなくする為に、「金属用黒染めスプレー」にて塗装してますが剥げやすいので取扱いに注意して下さい。

<車検時の注意>

車検では各寸法が変わっては車検に通らなくなります。

許容範囲内に収めておく必要があります。

カウル移動をした後、寸法が若干変わりますので車検時の寸法内になるように取付なければなりません。

車検時に注意する寸法 (Web データ参考の為、自分の車検書の数値を信用して下さい)

①全高(スクリーン高さ)

NC39/NC42 前期 1155mm±40mm(1115~1195)

NC42 後期 1160mm±40mm(1120~1200)

◎車検での裏ワザ

- ・フロントブロックのネジを緩めると少し上げたり下げたり出来るので良い位置で固定。(約±20mm 前後)
- ・フォークプリロード調整での硬めか軟めで初期高さが 20mm くらい変わる。
- ・フォーク突き出し量で-20mm くらいまで可能。下げすぎるとボトム時フェンダーに接触。
- ・タイヤ空気圧で 5mm くらい変わる。

参考

②ハンドル幅 (ハンドルを交換した場合の注意点)

レバー又はバーエンドの先端で測定。

NC39/NC42 前期 725mm±20mm(705~745)

NC42 後期 745mm±20mm(725~765)

◎車検での裏ワザ

- ・短い場合は、長いバーエンドを使用する。長い場合はバーエンドを取るか、短めの物に交換。
- ・レバー固定位置で調整する。

③光軸調整

暗い所で光軸の調整をして下さい。

